

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲げホール前に掲示しています。	事業所の理念を掲げており、理念の実践ができるようにユニット目標も年度ごとに職員と一緒に検討しているほか、個人目標も3ヶ月毎に設定し取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域の方々とは顔を合わせた際には挨拶をしたり、地域の行事に参加するなどして地域の一員として交流を図っています。	事業所の感謝祭には地域の方にも参加していただいたり、近隣の小学校の特別学級の生徒が定期的に楽器の演奏に来てくれたり、小学校の作品展にもご利用者の作品を出展しています。また、地域の夏祭りに参加したり、中学生の体験学習も受け入れるなどし、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に広報誌を入れるなどして少しでも地域の皆様に当事業所のこと、認知症のことを知ってもらえるように取り組んでおります。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告を行ったり、意見交換を行う場とし、頂いた意見をサービスの向上につなげられるよう努力しております。	民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民代表、ご家族などに参加していただき運営推進会議を実施し、そこでの意見を職員等にも周知し、サービス向上につなげています。	運営推進会議は2か月に1度の開催ができるように、うまく調整されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関して分からない部分があれば直接訪問するなどし、積極的に連絡を取っております。	運営推進会議には地域包括支援センター職員にも参加して頂いており、不明な点に関しては市に訪問し、指導を受けるなどの関係を構築しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常日頃より拘束をしない、させない。という事を職員に伝えていきます。施錠に関しても日中帯は絶対に施錠をしないことを徹底しています。	身体拘束をしない方針であり、玄関の施錠も夜間帯のみとしています。また、ホームに外部講師を招き身体拘束に関する研修も行い、職員の理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い、職員に意識を持たせています。	身体拘束同様にホームに外部講師を招き、虐待の防止についても研修を行い、職員の理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行なって職員に周知を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間をかけ説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望があれば、直接言われる方もいらっしゃいますし、本社でもお客様窓口を用意して対応しています。要望等が上がればすぐにミーティングなどで職員へも伝え、運営に反映できるようにしています。	ご家族の面会時に意見や苦情を確認しているほか、運営推進会議にて要望の確認や、行事でご家族がホームに来られた時にも確認をしています。また、「夢かなえてシート」を活用し、各居室担当職員がご利用者を思いを支援できるような取り組みも進めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの際に意見を確認するようにしているほか、個人面談の時間を設けるなどして個々の意見を聞く機会を設けています。また必要であればミーティングの議題として取り上げ運営に反映させています。	「つぶやきノート」を使用し、率直な意見や提案が職員間で共有できるようにしているほか、毎月のユニット会議にて職員の意見を確認する機会を設けています。また、個別面談も状況に合わせて実施しており、職員の意見や要望を把握できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人のスキルに合わせた職務を行うようにしその中で、本人にやりがいを持って仕事に取り組めるように支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を作りなるべく参加してもらうように働きかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の機会などにネットワーク作りを行い、情報交換などを行っています。また、外部研修先として受入を行い、職員同士の情報交換の場としています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけてご本人の思いを聴くようにし、納得して入居となるよう心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを聴き、要望等をなるべく取り入れられるように努力しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の思いや状況で今、何が必要か見極め、必要によっては他サービスの紹介をする場合もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体を基本に日々のかかわりの中で大切に、生活を共にすることでご本人の思いを感じ取るよう努めています。ひとりひとりの出来ることや役割分担を探し新しい発見を見つけるように努力しています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からの一方通行にならないように連絡を密にしてご家族様と連携を図り共に支援しあえる関係作りに努めております。	ご家族には毎月、活動の様子をまとめた広報を送付し情報を伝えているほか、居室担当者が毎月お手紙を送りご家族との情報の共有に努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親族だけでなく、友人・知人の方も多く面会に来ていただいております。	ご家族にも協力頂き、自宅への外泊やお墓参り、外出に出かけたり、ご家族、知人などの面会も頂き、関係が継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールなどで一緒に過ごす時間なども大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在関係を継続している方はおりません		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望をなるべく聴き、その人らしく生活が送れるように支援しています。また、困難な場合でも今までの生活歴やご家族からお話を聞くようにし、その中からその方らしい生活に近づけるように努力しています。	ご本人、ご家族の要望を確認し担当者会議にて一人ひとりの介護計画に反映できるように努めています。ご利用者が表現が困難な場合も、日頃の生活の中でのお話などから意向を確認するようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や習慣をご本人・ご家族からお聞きし、暮らし方の把握に努めております。入居後もなるべくそれに近い環境で生活が送れるように支援しております。	入居時に把握したアセスメントだけではなく、日々の生活でご利用者との会話や、ご家族からの情報収集により把握に努めています。3か月に1度、定期的にあセスメントの見直しも行っています。	アセスメントでは、ご利用者の生活歴やなじみの暮らし方も把握できるように書式を見直されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で小さな変化もなるべく見逃さず、職員で共有・理解し、現状把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望や身体状態を把握しカンファレンスを行い課題の把握や対応について検討をしています。同時にご家族にも意見を聞いたり提案させていただいております。	3ヶ月に1回モニタリングを実施し、課題の把握や対応方法について検討しています。必要に応じてご家族からの意見等もお聞きし、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有について、個別の記録のほかにも申し送りノートを活用しています。介護計画の見直しの際にも経過を把握し活用しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々要望に応じて、出来る限り答えられるように努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様に楽しんでいただける様にボランティアさんや小学生との交流も定期的に行っております。また、自治会の防災訓練や運動会にも参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携を図り適切な医療を受けられるように支援しております。必要に応じて往診も行っております。	ご家族に定期受診をお願いしているご利用者もおりますが、ほとんどのご利用者の受診支援を職員が同行して行っています。また、協力医との連携を図り適切な医療を受けられるよう支援しており、必要に応じ往診もいただいております。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤配置し日常の健康管理、受診の同行を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに伺ったり、ご家族様、病院との情報交換・相談するように努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前ターミナルケアの方がおり、対応させていただきました。ご家族とたくさん話し合いを行い、方針やご家族の想いを共有しながらケアに当たりました。	重度化した場合や終末期の対応については事業所としての指針も作成し、契約時にご家族に同意を頂いているほか、実際に看取りの支援を行ってケースもあり、状態に応じて話し合いの機会も設けています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し掲示しております。防災訓練にも参加し応急処置を実践できるように意識を持ってもらうようにしています。	消防署の方に来てもらい救命講習も実施しており、職員が適切な初期対応ができるように指導しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行っており、入居者様と一緒に実施しています。地域の防災訓練にも参加し地域の方々からもグループホームの存在を知っていただけるようにし、協力を得られるようにお願いしております。	日中の火災や夜間の火災を想定した避難訓練を行ない、地域の方にも災害時の協力をお願いしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定や尊厳を傷つけるような言動には研修や日々の業務の中で周知徹底するように努めています。又、個人情報保護マニュアルを整備しています。	広報の写真の掲載についても同意書を頂いており、情報保護に関する研修や日々の業務を通して周知徹底に努めています。また個人情報保護マニュアルを整備し、社内規定にも明記されており、対応の徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ることは積極的に行ってもらい、出来ないことは配慮しながら援助できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし、ご自分で出来ることは可能な限りできるように支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人より希望があれば、美容室へお連れしたり、可能な方は自分で洋服を買いに出かけ選んだりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に押し付けにならない範囲で食事の準備や片付けを一緒に行っております。また時々外食の機会を設け楽しくお食事できるように支援しています。	ご利用者の負担にならない範囲で食事の準備、片付けを一緒に行っています。お楽しみメニューを取り入れたり、ご利用者と一緒におやつ作りをしたり、ホームで流しそうめんを行ったり、外食にも出かけるなど、ご利用者に食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立になっています。水分に関しては自分でお茶を自由に飲めるようにしてありますので、好きな時に飲んでいただいております。介助が必要な方は職員が介助し必要量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。その人に合わせて見守りや声掛け一部介助で支援しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し適宜声掛けや誘導を行っております。また清潔保持も考慮し清拭を行っております。	ご利用者全員を対象に水分・排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握することで気持ちよく自然に排泄ができるように日々取り組んでいます。羞恥心を配慮した介助の必要性を職員にも周知しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を多く摂取して頂くようにしており、日常生活動作や体操・レクリエーション・散歩等で身体を動かす様に働きかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴を行っています。入浴表を活用し管理を行っていますが、その時の体調や気分によるので強制はしていません。入浴拒否の強い方もいますが、清拭など工夫し清潔保持をしています。	ホームでの入浴支援はもちろんですが、日帰り温泉施設で入浴を楽しむ機会も設けています。入浴拒否のある方も職員がタイミングを見て声かけを行い、入浴して頂けるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や就寝時間・起床時間は個人の生活リズムに応じて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を見やすい場所に保管し薬の変更などがあれば受診記録、申し送りノートに記載し周知できるようにしています。病歴等も把握するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意とするものや、花壇の手入れ、犬の世話、買物、歌やレクリエーション等を提供し支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自分で好きな時に外へ出る方もいらっしゃいますが、介助が必要な方は職員が同伴して出かけます。又、外食や近くの公園、遠出も時々行い、外出の機会を設けるようにしています。	天気の良い日は散歩に出掛けており、個別の外出支援も対応もできる範囲で行っています。また、季節に合わせてお花見や花火見学、瓢湖への白鳥見学などへのドライブにも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在希望されて現金を所持している方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があれば、使用していただいています。はがきや切手なども必要時には本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は居心地の良い空間となるように配慮しています。季節感のあるものを飾ったり、写真なども貼っております。	共有スペースはソファが置かれ、ご利用者がくつろぎながらテレビを見られるようになっています。普段の活動の様子をまとめた写真も季節毎にまとめ掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が目が行き届き入居者様が集える空間を設けており自由に過ごせる場所となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れたものを使用していたり、身の回りには好みのものや思い出の品を飾ったりして居心地よく過ごせるように配慮しています。仏壇やご家族の写真、好きな芸能人の写真を飾っている方もいらっしゃいます。	家具等は使い慣れたものを使用していたり、身の回りには好みのものや思い出の品を飾ったり居心地のよい空間作りに努めています。また、ご家族の写真を飾ったり、仏壇や化粧台を置かれている入居者の方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には入居者様と話し合いお名前と居室名を表示しています。浴室やトイレにも見やすく表示を行い、出来るだけ自分の力で生活を送れるよう配慮し支援しています。		